

# 第1回患者・家族メンタル支援学会学術総会

(市民公開講座を兼ねる)

— 多職種による患者・家族中心の医療 —

## 事前配布資料



会期: 2015年10月24日(土)～25日(日)  
会場: 東京大学法文1号館 (東京都文京区本郷7-3-1)

主催: **患者・家族メンタル支援学会**  
(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102  
(電子メール) [office@smspf.org](mailto:office@smspf.org)  
(Tel/Fax) 03-3817-6770

(会場)

- 第1会場 : 法文1号館2階25番講堂 : 講演会場  
第2会場 : 法文1号館1階21番講堂 : 講演会場  
第3会場 : 法文1号館1階22番講堂 : 講演会場  
第4会場 : 法文1号館3階23番講堂 : 学会本部、講師控室、談話室  
第5会場 : 法文1号館1階ロビー : 参加受付 (両日の受付開始時間) 8:30  
第6会場 : 附属病院A棟 15階「精養軒」: 懇親会。 10月24日(土)17:30～19:30

参加者受付は第5会場のみで行います。

(当日参加申込の参加費) .... 抄録集を含む。  
患者メンタル支援学会の学会員 (8千円)、学部学生(5千円)、その他 (1万1千円)

本プログラムは市民公開講座でもあり、医療者以外の一般市民は参加費無料です。  
ご参加希望の患者・家族・一般市民の方は当日受付でお申し出ください。事前登録は不要です。ただし、抄録集購入の際には1冊千円を当日会計ください。

懇親会参加費: 5千円 .... 当日申込み可。どなたでもご参加いただけます。

理事会 :2015年:10月24日(土)9:20-9:50 (第4会場)

会員総会・評議員総会 :2015年10月24日(土)12:00-12:20 (第1会場)

## 患者・家族メンタル支援学会の入会手続き

当日に入会申し込みの際には、下記の費用を会計ください。

(入会金) 正会員ならびに学生会員とも: 3千円  
(年会費) 正会員: 5千円、学生会員: 2千円

## 運営組織

### 会長組織:

共同総会長 畑埜 義雄 (和歌山県立医科大学名誉教授、元病院長)  
三本 博 (米国コロンビア大学神経内科教授)

総括: 酒井亮二 (患者・家族メンタル支援学会理事長、日本医療安全学会理事長)

プログラム委員会: 各専門分野の担当理事および評議員

組織委員会: 会長組織、全理事、全評議員、その他

第1回患者・家族メンタル支援学会総会事務局  
患者・家族メンタル支援学会本部内  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102  
TEL/FAX: 03-3817-6770 Email: 1stmeeting@smspf.org

2015年4月

## ご挨拶

患者は医療に何を期待し、何を求めているのか。患者が求めるのは病気を治すことである。しかし、治らない病気も多々ある。治る経過が著しく長く、不安が強くなることもある。同時に、患者だけでなく、運命共同体である患者の家族も不安と葛藤を持つことになる。

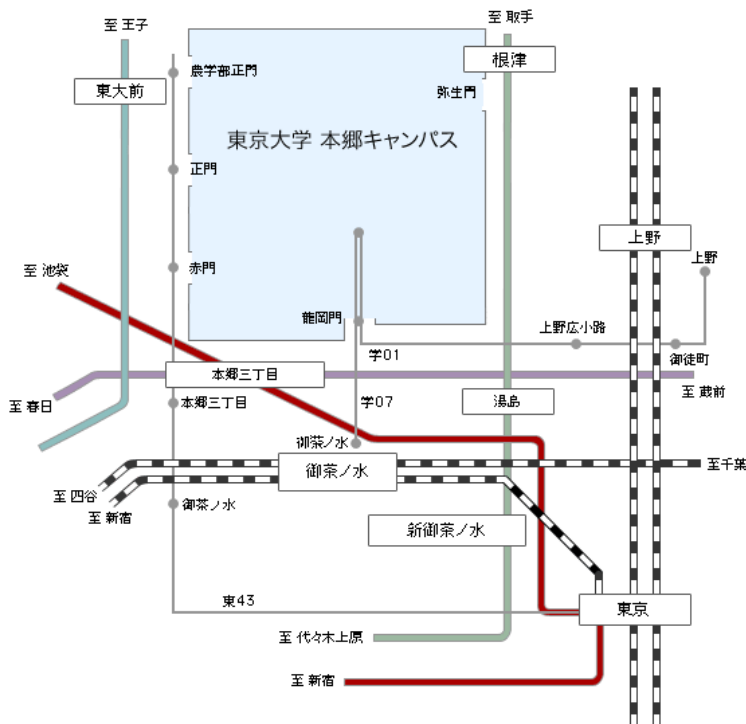
嘗て、医療は患者の病気の治療が主体であった。時代の変遷と共に病気が治療されなくても病気に伴う身体的苦痛に対してケアが行われる。今日、医療技術は著しく進歩している。不治の病とされていたがんも治療され、延命が可能となっている。さらに、身体的な治療とケアから、患者と家族への精神的・心理的ケアのニーズが日々に増大し続けている。家族への精神的・心理的支援に関するより高度な知識と技能が必要である。治療を担って

きた主治医だけではなく、人の心に対応する専門家が必要である。また、そのニーズは患者と家族の不安が長期化する前から対応が必要である。多職種、特に人の心を扱う臨床心理士、診療医、精神科医、看護師、薬剤師などによる強力な支援チームを構築し、即時に対応できるシステム作りが必要です。

患者と家族への精神的・心理的支援のニーズは日本においては特に日々増大し続け、医療者には患者と家族への精神的・心理的支援、苦悩の解放に関するより高度な知識と技能の習得が必要である。本学術総会では、これらの実態を相互に共有し、想像力、理解力およびコミュニケーション力に関する様々な関連分野の方々のご意見を拝聴し、患者と家族の求めている信頼され、満足される医療へ改善する方策を目指しています。多くの方々の参加を期待しております。

第1回患者・家族メンタル支援学会学術総会 共同総会長  
畑埜義雄

## 交通案内

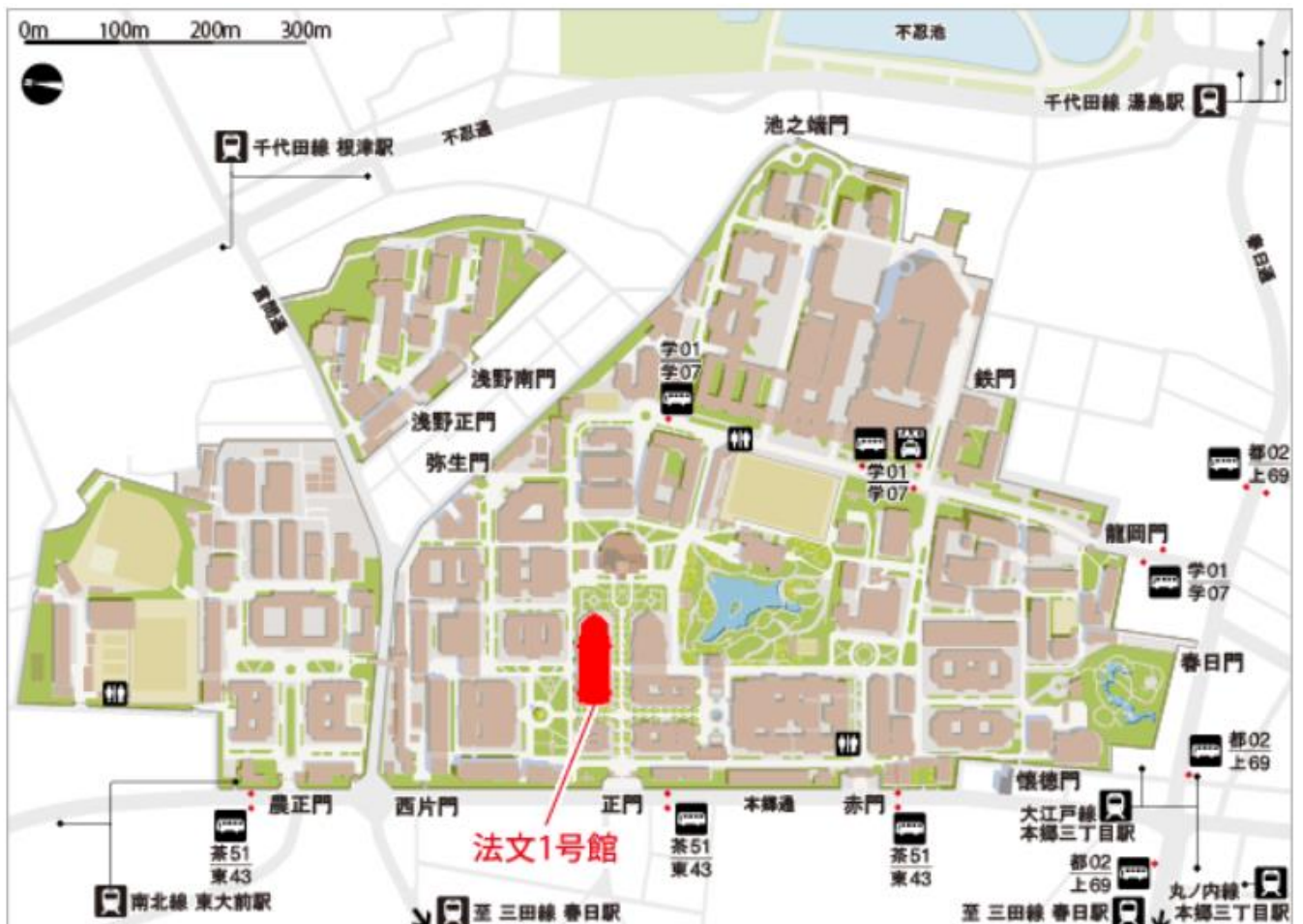


最寄り駅		所要時間
本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)		徒歩 8 分
湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)		徒歩 8 分
東大前駅(地下鉄南北線)		徒歩 1 分
お茶の水駅 (JR 中央線、総武線)	地下鉄利用	丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
	地下鉄利用	千代田線(取手方面行) — 湯島駅又は根津駅下車
	都バス利用	茶 51 駒込駅、王子駅又は東 43 荒川土手行 東大(赤門前、正門前、農学部前バス停)下車
	学バス利用	学 07 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車
上野駅及び御徒町駅 (JR 山の手線等)	都バス利用	都 02 大塚駅行 — 湯島四丁目下車(御徒町駅のみ)
	学バス利用	学 01 東大構内行 — (龍岡門、病院前、構内バス停)下車

## 会場案内

東京大学法文1号館  
東京都文京区本郷7-3-1

(東大正門から安田講堂に向かい徒歩数分。右側の煉瓦館)



## 飲食について

**東大のすべての講堂では飲食が禁止されています。**

生協中央食堂(安田講堂前広場地下、会場より徒歩3分)が開店していますが、その他の学内食堂は病院レストラン以外はすべて閉店しています。

大学赤門および正門の向かい側、および本郷三丁目交差点付近(会場より徒歩10分)民間の飲食店・コンビニがあります。



### 懇親会のご案内

日時: 2015年10月24日(土)午後5時30分～7時30分  
会場: 東大病院 入院棟A 15階 レストラン精養軒  
参加費: 5千円

東京を代表する高級レストラン「精養軒」による会食です。



## 宿泊案内

### 東京都文京区のホテル

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/osusume/inn.html>

### 東京都台東区のホテル

<http://www2.famille.ne.jp/~hotekyo/>

**ホテルリストは参考です。  
申し込みの際は、直接ホテルにお問い合わせください。**

以上のすべてのホテルについて本学会は実務契約を一切結んでいませんので、契約に関する責任は学会にはありません。

## 座長・座長・発表者の皆様へ

### (座長・司会の先生方へ)

ご担当のセッションの開催会場へ、セッション開始時間の30分前までにご入場ください。

### (口演発表の方法)

発表者は講演時間の30分前までに、各講演会場にご入室ください。

Windows 7 ないし 10 マシン 一台をご利用できます。

プレゼンテーションデータ保管の USB メモリーをご持参ください。USB メモリーをご自身で PC に装着したのち、ご自身でご操作ください。リモコン操作器具を用意いたします。一般演題(口演)の講演持ち時間は当該演題のプログラムを参照ください(質疑時間を含む)。

# プログラム

(第1日目)

2015年10月24日(土)

## (1日目/第1会場) 法文1号館2階25番講堂

10:00-10:05 開会

10:05-10:40 (EL1 教育講演)

身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発に関する国家プロジェクト(厚労省)の概要

伊藤 弘人 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 社会精神保健研究部部长)

10:40-11:10 (PL1 会長講演-1) 医療(healthcare)におけるケアマインド教育のあり方  
—— 医師、看護師、薬剤師などのメンタル支援の改善 ——

畑 義雄 (和歌山県立大学名誉教授、元病院長)

11:10-12:00 (PL2 会長講演-2) 米国における患者メンタル支援の最新動向

三本 博 (米国コロンビア大学神経内科教授)

12:00-13:00 昼食

12:00～12:20 会員総会・評議員総会

13:00-13:50 (EL2 教育講演) 医療法・医療倫理から見た適切なインフォームド・コンセントとは  
加藤 久雄 (慶應義塾大学法学部元教授、弁護士、(医療法・医療倫理))

13:50-15:20 (CP1 臨床パネル討論会) 病院長からみた患者・家族メンタル支援への展望  
オルガナイザー: 畑 義雄 (和歌山県立大学名誉教授、元病院長)

(CP1-1) 大学病院の立場から患者・家族のメンタルケア

畑 義雄 (和歌山県立大学名誉教授、元病院長)

(CP1-2) 性的暴力を受けた患者と家族のメンタルケア

石川 清 (名古屋第二赤十字病院 院長)

(CP1-3) リハビリテーションから見た患者・家族のメンタルケア

田丸 司 (偕行会リハビリテーション病院 院長)

15:20-17:00 (MLCP1 医療法パネル討論会) 裁判事例から学ぶ過剰医療

オルガナイザー: 井上 清成 (医療系弁護士)

〔講師〕 井上 清成 (井上法律事務所 所長、弁護士。東京弁護士会所属)

石川 善一 (石川善一法律事務所 所長、弁護士。山梨県弁護士会所属)

山崎 祥光 (井上法律事務所、弁護士、東京弁護士会所属。医師)

〔テーマ〕 質的、量的に過剰な医療が、時に医療過誤の形で、また、時に医療費濫費の形で取り上げられます。法律家の視点で見た場合は(特に裁判事例となった場合も)、その質的・量的な過剰性がどのように捉えられるものであるのか、実例を紹介しつつ法的な観点からその着眼について議論する。

## (1日目/第2会場) 法文1号館1階21番講堂

### (ワークショップ①) 新しい医療教育の姿

13:00-14:30 (WS1-1) コーチングを活用した患者・家族メンタル支援の実際と有用性  
オルガナイザー: 出江 紳一 (東北大学大学院医工学研究科研究科長・リハビリテーション医工学分野 教授)  
(座長: 安藤 潔 / 出江 紳一)

(WS1-1-1) がん診療医の視点 安藤 潔 (東海大学医学部血液腫瘍内科 教授)  
(WS1-1-2) リハビリテーション診療医の視点 出江 紳一 (東北大学大学院医工学研究科研究科長 教授)  
(WS1-1-3) 眼科診療医の視点 小野 眞史 (日本医科大学眼科 准教授)  
総合討論 10分

14:30-16:00 (WS1-2) 新人看護師に対する患者・家族メンタル支援に関する教育の現状と課題

オルガナイザー: 新村 美佐香 (菊名記念病院)

パネリスト: 清水 睦子 (荻窪病院 看護部看護管理室 教育専従課長)  
加藤 節子 (小田原市立病院 副看護部長)  
赤間 仁見 (菊名記念病院 看護部長)  
総合討論 10分

16:00-16:30 (WS1-3) 多職種チーム医療による患者・家族メンタル支援・医療倫理の教育  
座長: 松村 由美 (京大病院医療安全管理室室長、病院教授)

(WS1-3-1) 患者の話し方の違いが看護学生の情報取得と情報処理に及ぼす影響～3つの場面による比較～  
杉浦浩子<sup>1)</sup> 矢野 優<sup>2)</sup> 三代澤邦恵<sup>2)</sup> 箕浦文枝<sup>2)</sup>  
1) 岐阜大学医学部看護学科 2) 岐阜医療科学大学

(WS1-3-2) がん患者支援「ピア・サポート」活動の実践のなかで出会った10のコミュニケーション例:  
医療者と患者のよりよいコミュニケーション構築に大切なスキルを探る  
寺田佐代子 (NPO 法人びあサポートわかば会)

16:30-17:00 (CP2 臨床パネル討論会) 臨床現場でのメンタル支援  
座長: 荒木 登茂子 (九大病院心療内科、九大医療コミュニケーション元教授)

(CP2-1) 発達に遅れがみられる児に対する母親のコミュニケーションの特徴  
箕浦文枝<sup>1)</sup>, 杉浦浩子<sup>2)</sup>  
1) 岐阜医療科学大学保健科学部看護学科, 2) 岐阜大学医学部看護学科

(CP2-2) 在宅生活を送る遷延性意識障害児・者の主介護者の心理: 過去、現在、そして将来に向けて  
大西 久男 (大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類)

## (1日目/第3会場) 法文1号館1階22番講堂

### (ワークショップ②) 事例に学ぶメンタル支援

13:00-13:50 (WS2-1) 心のプリズム---当事者から学ぶ本物のメンタルケア  
～認知症・子宮頸がんワクチン・でんぐりがえしプロジェクト～

大熊由紀子 (国際医療福祉大学大学院教授、元朝日新聞論説委員)

13:50-15:20 (WS2-2)  
不可逆的新生児障害における母親・家族へのメンタル支援の問題点と在り方について  
---患者・家族の立場から

座長: 大熊由紀子 (国際医療福祉大学大学院教授、元朝日新聞論説委員)

- (WS2-2-1) 「育」のない「療育」・「支援」という名の「母親教育」  
児玉真美 (重症心身障害者の母親、フリーライター、一般社団法人日本ケアラー連盟理事)
- (WS2-2-2) 出産事故被害児や重度障害児の家族を苦しめる産科医療界の思想と医療者の言葉  
勝村久司 (産科医療補償制度運営委員、京都民医連中央病院倫理委員)

15:20-17:00 (WS2-3)  
メンタル支援における継続した患者理解と情報共有の努力の重要性について  
---患者・家族の立場から

座長: 勝村久司 (産科医療補償制度運営委員、京都民医連中央病院倫理委員)

- (WS2-3-1) 薬害エイズ事件における被害患者のメンタルケア、被害者遺族のグリーフケアについて  
花井十伍 (全国薬害被害者団体連絡協議会代表世話人、NPO「ネットワーク医療と人権」理事)
- (WS2-3-2) サリドマイド被害から学ぶ、患者・家族・障害者へのメンタル支援の課題  
間宮清 (NPO「日本慢性疾患セルフマネジメント協会」普及・広報委員、サリドマイド被害者)
- (WS2-3-3) 医療被害に遭った本人や家族に寄り添った経験から  
木下正一郎 (弁護士、医療問題弁護団副幹事長、患者の権利オンブズマン東京副幹事長)

# プログラム

(第2日目)

2015年10月25日(日)



## (2日目/第1会場) 法文1号館2階25番講堂

- 9:30-10:20 (EL3 教育講演) 患者・家族の心の理解とメンタルケア  
荒木 登茂子 (九大心療内科、医療コミュニケーション元教授)
- 10:20-11:10 (EL4 教育講演) 医薬品有害作用に関する患者・家族との情報共有のポイント  
清野 敏一 (帝京平成大学薬学部教授、東大病院前薬剤部副部長)
- 11:10-12:00 (EL5 教育講演) 自殺予防のための地域メンタル支援システム  
本橋 豊 (京都府立医科大学特任教授)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-15:00 (CP3 臨床パネル討論会) 臨床現場での患者・家族との対話窓口のあり方  
オルガナイザー 松村 由美 (京大病院医療安全管理室室長、病院教授)
- 13:00-13:30 (CP3-1) 医療機関における患者相談窓口の位置づけ  
松村 由美 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理室)
- 13:30-13:50 (CP3-2) 家族メンタル支援を考える—対話窓口担当の立場から—  
中田 弥生<sup>1)</sup>、覚前 正雄<sup>2)</sup>、石田 祐樹<sup>3)</sup>  
特定医療法人寿栄会 有馬高原病院 1)患者支援センター (医療メディエーター)、  
2) 医療安全管理室、3)看護部病棟師長)
- 13:50-14:10 (CP3-3) 事務職員が運営する患者相談窓口における患者・家族メンタル支援の実態と考察  
平井 理心<sup>1),2)</sup>、小田倉 富雄<sup>1),2)</sup>、小室 光司<sup>1),2)</sup>、宮崎 文子<sup>1),2)</sup>、石塚 伸<sup>2)</sup>、浜野 淳<sup>1)</sup>  
1) 筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター 2) 筑波大学附属病院 医事課
- 14:10-14:40 (CP3-4) 千葉のADR (外部の第三者機関) の患者相談担当からみた病院窓口対応について  
松村 有子 (特定非営利活動法人医事紛争研究会 医療紛争相談センター)
- 14:40-15:00 総合討論
- 15:00-15:30 (EL6 教育講演) 歯科診療における上手な対話  
岡田 智雄 (日本歯科大学附属病院総合診療科1教授)
- 15:30-16:30 (EL7 教育講演) 患者・家族メンタル支援のための臨床コミュニケーションの基本  
荒木 登茂子 (九大心療内科、医療コミュニケーション元教授)
- 第1会場 終了

## (2日目/第2会場) 法文1号館1階21番講堂

- 11:20-12:00 (EL8 教育講演) 遺伝子カウンセリングにおける  
患者と家族へのメンタル支援のポイント  
沼部 博直 (お茶の水女子大学ライフサイエンス専攻特設遺伝カウンセリングコース教授)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-14:10 (DP1 薬剤パネル討論会) 薬剤の適正使用に関する患者・家族メンタル支援  
オルガナイザー: 橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院・院長補佐兼薬剤部長)
- 13:00-13:20 (DP1-1) 薬局の在宅支援サービスのあり方  
一調剤薬局の在宅支援における患者・家族ケアに関する研究  
鈴木 聡 東 憲治 眞鍋 一 (日本医薬経営コンサルタント協会 東京都支部 調剤薬局研究会)
- 13:20-13:40 (DP1-2) 患者として経験し、薬剤師視点で考えること  
～クスリを飲む時、何を考えるか～  
久田 邦博 (慢性骨髄性白血病患者・家族の会「いずみの会」、エーザイ株式会社・保険薬局政策部)
- 13:40-14:00 (DP1-3) きざし”を見逃さない ～薬剤師が取り組む自殺の防止～ (仮題)  
向井 勉 (株式会社市民調剤薬局)
- 14:00-14:10 総合討論
- 14:10-15:10 (CP4 臨床パネル討論会)  
ハイリスク妊婦とその家族に対するメンタル支援のポイント
- 14:10-14:40 (CP4-1) リエゾン精神医学の概要と周産期メンタルヘルスのポイント  
堀川 直史 (埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック教授)
- 14:40-15:00 (CP4-2) ハイリスク妊婦・家族へのメンタル支援 - 東大病院の事例  
小松 篤史 (東大病院産婦人科)
- 15:00-15:10 総合討論

## (2日目/第2会場) 法文1号館1階21番講堂

15:10-17:10 (CP5 臨床パネル討論会) 医療機関による患者・家族メンタル支援の現状と課題

座長: 新村 美佐香 (菊名記念病院)

15:10-15:30 (CP5-1) 循環器科医による心療内科外来の試み

山田 武彦 (親友会 島原病院 循環器科)

15:30-15:50 (CP5-2) 透析患者と支援者が支え合えるポジティブな対話環境の設計について

清田 敦彦<sup>1)、2)</sup>、岩本 脩平<sup>1)</sup>、伊東 優<sup>1)</sup>、永田 素彦<sup>3)</sup>

1) 清田クリニック、2) 京都大学大学院 博士後期課程、

3) 京都大学大学院 人間・環境学研究科

15:50-16:10 (CP5-3) 気管切開手術に対する代理意思決定に葛藤のある母親への関わり

丸山 遥 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部 こどもセンター)

16:10-16:30 (CP5-4) 出産にかかわる医療過誤により児を喪失した女性の次子の妊娠・出産に対する助産師の支援

山崎 由美子 (川崎市立看護短期大学)

16:30-16:50 (CP5-5) キーパーソン (Key person) が意思決定する際に抱える精神的負担の検証

福森 優司 (大阪大学医学部附属病院 保健医療福祉ネットワーク部)

16:50-17:10 (CP5-6) 終末期のがん患者が自宅へ退院するまでの意思決定プロセス

庄村 昌美、熊谷 和美 (長野市民病院 3階南病棟)

第2会場 終了

## (2日目/第3会場) 法文1号館1階22番講堂

### (ワークショップ③) 「支えあうきずな社会」の構築

9:00-11:00 (WS3-1)

#### 人生の最終段階の医療における多職種チームによる患者・家族のメンタル支援 ～特に倫理判断支援について～

##### 【オルガナイザー】

角保徳 (国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センターセンター長)  
三浦久幸 (国立長寿医療研究センター在宅連携医療部長 (人生の最終段階における医療体制整備事業事務局))  
西川満則 (国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部/EOL ケアチーム (人生の最終段階における医療体制整備事業事務局))

【座長】三浦久幸 (国立長寿医療研究センター在宅連携医療部長 (人生の最終段階における医療体制整備事業事務局))  
清水哲郎 (東京大学大学院人文社会系研究科死生学応用倫理センター (特任教授))

9:00-9:15 (WS3-1-1) 食支援におけるメンタル支援、栄養選択に係る意思決定支援  
～「食べる」を支える栄養士が、「食べない」選択をメンタル支援する意味～  
木下かほり (国立長寿医療研究センター 栄養管理部/EOL ケアチーム (臨床栄養主任・管理栄養士))

9:15-9:30 (WS3-1-2) 非がん疾患の苦痛症状緩和と、倫理的判断に基づいた意思決定支援  
～薬剤師の視点から、EOL ケアチームの3年間の活動を通じて～  
久保川直美 (国立長寿医療研究センター 薬剤部/EOL ケアチーム (緩和薬物療法認定薬剤師))

9:30-9:45 (WS3-1-3) 意思決定支援における病院と地域との連携の課題  
～緩和ケア認定看護師が退院支援に関わることから見えてきた課題～  
松岡サチ子 (公立西知多総合病院 看護局/患者サポートセンター患者支援室長 (緩和ケア認定看護師))

9:45-10:00 (WS3-1-4) 地域の多職種で行う意思決定支援 (想いをつなぐ) の試み  
～平成26年度人生の最終段階における医療体制整備事業の経験から～  
岡村紀宏 (社会医療法人 恵和会 西岡病院 医療福祉課長 (医療ソーシャルワーカー))  
(公益社団法人 日本医療社会福祉協会 業務執行理事/調査研究部長)

10:00-10:15 (WS3-1-5) 臨床倫理からみた意思決定支援 ～E-FIELDによる相談員研修のコンセプト～  
清水哲郎 (東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター (特任教授))

10:15-11:00 総合討論

##### 【企画意図】

人生の最終段階の医療・ケアにおいて、アドバンス・ケア・プランニングやエンド・オブ・ライフ・ディスカッションといった意思決定支援が重要である。

国立長寿医療研究センターEOL ケアチームは、がん・非がん等疾患の区別なく、苦痛症状緩和と意思決定支援を実践している。このWSでは、管理栄養士による食支援における意思決定支援について、緩和薬物療法認定薬剤師の視点からEOLケアチームによる苦痛症状緩和と意思決定支援、とくに倫理判断支援の8カテゴリーについて発表していただく。

同センターの周辺地域、知多半島では、患者の意思を尊重するための地域連携グループが組織化されてきている。このWSでは、そのグループメンバーで、患者サポートセンターにおいて、患者支援にあたる緩和ケア認定看護師から、意思決定支援における病院と地域との連携の課題について発表していただく。

同センターが事務局を務める、厚生労働省事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」が、平成26年度から継続中である。この事業の研修プログラムである、Education For Implementing End-of-Life Discussion (E-FIELD)には、倫理的判断の支援、法的懸念の払拭、コミュニケーションスキルの向上、患者の思いを繋ぐ連携について研修項目が盛り込まれている。本WSでは、平成26年度事業採択医療機関の医療ソーシャルワーカーから、どのように意思決定支援の地域包括ケアを展開したかを発表していただき、日本医療社会福祉協会の意思決定支援の普及計画についても言及していただく。

最後に、E-FIELD 作成メンバーである臨床倫理第一人者から、意思決定支援の倫理的視点を解説していただき、登壇した演者に形成的なコメントをいただいた後、全体討論として、多職種チームが、人生の最終段階の意思決定支援について、どのように関われば、患者・家族のメンタル支援につながるのか、会場をまじえた議論を展開したい。

## (2日目/第3会場) 法文1号館1階22番講堂

### 11:00-12:25 (WS3-2) 患者・家族に対する地域による支えあいの現状と課題

(座長) 松本 良二 (千葉県安房保健所所長) / 荒木 登茂子 (九大心療内科特別講師、元教授)

#### 11:00-11:25 (WS3-2-1) 患者・家族に対する地域による支えあいの現状と課題

荒木 登茂子 (九大心療内科特別講師)

#### 11:25-11:50 (WS3-2-2) 地域でALS患者を支える～現状と問題点～

松本 良二 (千葉県安房保健所所長)

#### 11:50-12:10 (WS3-2-3) 支部活動からのALS患者・家族の支援

川上純子 (日本ALS協会千葉県支部 事務局長)

12:10-12:25 総合討論

12:25-13:20 昼食

### 13:20-16:00 (WS3-3) 患者・家族に対する地域による支えあいの現状と課題

座長: 星 真哉 (医療法人篠原湘南クリニック・クローバーホスピタル)

#### 13:20-13:40 (WS3-3-1) 地域包括ケアシステムと昨今の医療現場における

患者家族の意思尊厳の尊重について

星 真哉 (医療法人篠原湘南クリニック・クローバーホスピタル)

#### 13:40-14:00 (WS3-3-2) わくわくどきどきかぼちゃんクラブ ～楽しむ気持ちが家族を変えた～

濱崎 香織 (医療型短期入所施設 かぼちゃんクラブ)

#### 14:00-14:20 (WS3-3-3) 患者看取りの際に特に家族に配慮した症例

松尾 誠司 (長崎宝在宅医療クリニック)

#### 14:20-14:50 (WS3-3-4) アスベスト患者と家族の会の活動概要

古川 和子 (アスベスト患者と家族の会長)

#### 14:50-15:20 (WS3-3-5) がんサロン支援塾の活動概要

納賀 良一 (島根益田がんケアサロン会長)

#### 15:20-15:40 (WS3-3-6) がん患者相互支援「ピア・サポート」活動

Facilitationとmediationをベースにした“ピア・サポートプログラム”の実践から考察した特質と有効性

寺田 佐代子 (NPO法人びあサポートわかば会)

#### 15:40-16:00 (WS3-3-7) 医療者がおこなうがんピアサポーターへの支援の実態と展望 ～NPO法人がん患者団体支援機構の事例から～

平井 理心<sup>(1)</sup>、坂下 千瑞子<sup>(2)</sup>、三宅 智<sup>(2)</sup>、赤穂 理絵<sup>(3)</sup>、山田 陽子<sup>(4)</sup>  
浜中 和子<sup>(4)</sup><sup>(5)</sup>

(1) 筑波大学附属病院 (2) 東京医科歯科大学医学部附属病院

(3) 都立駒込病院 (4) 特定非営利活動法人がん患者団体支援機構

(5) 浜中皮ふ科クリニック

第3会場 終了

患者メンタル支援学会 届出用紙

下記をご記入の上、次の学会事務局宛に電子メールまたは FAX にて送信ください。

(メールアドレス) office@smspf.org

(FAX 番号) 03-3817-6770 へ送信ください。

提出 年 月

日

該当項目に○を記入。	( ) 入会届	( ) 変更届	( ) 退会届
	新規 / 退会または変更前	変更後 (変更時のみ該当項目を記入ください)	
氏名			
所属			
職位 (学生の場合は、在学期間を明記)			
郵送先の住所			
電子メールアドレス			
電話番号			
FAX 番号			

入会の際には入会金と年会費が必要です。詳細は下記をご覧ください。

<http://www.smspf.org/activities.shtml>

